

1 単元名 えっへん！われら一色ウナギ応援隊

2 単元目標

- (1) ウナギの養殖や加工・販売に従事している人の思いや生き方にふれ、自分の住んでいる地域のよさに気づき、愛着と誇りをもつことができる。 (自己の生き方)
- (2) 一色町の特産物であるウナギの養殖や加工・販売に従事している人に関心を持ち、自分なりの課題を見つけることができる。 (課題の設定)
- (3) ウナギの養殖や加工・販売に従事している人への取材を通して、さらにおいしいウナギを生産するための努力や工夫を調べることができる。 (情報収集の力)
- (4) 取材した内容を分かりやすくまとめ、友達に伝えることができる。 (まとめ・表現)

3 指導観

本学級は、男子14名、女子16名の30名が在籍する。子どもたちは、とても活発で、周りの子と積極的に関わろうとする子が多い。社会科「わたしのまち みんなのまち」の学習では、近所のお店や公園を中心に生き生きと紹介する姿が見られた。また、その中には、一色町の特産物である「ウナギ」や「えびせんべい」を、自分の住んでいる地域の自慢であると紹介する子もいた。自分の住んでいる地域が好きであるかと質問をすると、ほとんどの子が「好き」と答えた。また、自分の住んでいる地域の自慢を聞くと、「りきゅうさんは駄菓子が多くて自慢のお店だよ。」「道で会うと地域の人があいさつをしてくれるよ。」など、すぐに意見や理由を答えられる子が多く、子どもたちは、地域の人のあたたかさやよく利用するお店のよさに気付いている。しかし、自分の住んでいる地域をよく行く場所やよく利用するお店にしか、目が向いておらず、地域の産業や特産物、またそこで従事している人を、どこの地域にも負けない誇りと感じている子は少ない。抽出児であるA男の地域の自慢は、「家の近くの小さな土の山」と「毎朝、道で会うと地域の人があいさつをしてくれるよ。」と答えている。一色町の特産物であるウナギの養殖や加工・販売に従事している人の努力や工夫、地域の自慢できるものには、まだまだA男は気付くことができていない。

本単元では、ウナギの養殖や加工・販売に従事している人の思いや生き方にふれ、自分の住んでいる地域のよさに気づき、愛着と誇りをもつことをねらいとしている。一色町の基幹産業であるウナギの養殖や加工・販売は、全国的に有名である。東部小学校区は、ウナギの養鰻池や関連施設、会社が数多くあり、本学級に在籍する子の中にも、ウナギの養殖を営んでいる家庭が5軒ある。ウナギの養殖や加工・販売を題材として扱うことは、自分の住んでいる地域の身近な産業であるために、地域とのつながりを考えることができる点、先人の苦労や一色のウナギを守っていききたいという地域の人たちの思いや生き方にふれながら課題の追究を展開できる点、養殖や加工・販売に従事している人たちが、日々、努力や工夫を積み重ねていることを知ることができる点から、自分の住んでいる地域に愛着と誇りをもつきっかけとなる最適な題材であると考えた。

指導にあたり、つかむでは、ウナギについて知っていることを発表し、イメージマップを作成することで、ウナギについて知っていることと知らないことを明確にし、ウナギについてのイメージを整理する。また、値段の違う一色産(A)と中国産(B)のウナギ(ここでは産地は公表しない)の蒲焼を食べ比べることで、見た目や味、食感などの違いを感じさせる。イメージマップの作成と食べ比べの活動を通して、疑問点や分からないこと、味の違いなどについて課題をもたせ、本やインターネットなどを用いて調べ学習に取り組む。そして、同じような課題を設定している子ども同士でグループをつくり、調べたことを模造紙にまとめることで、ウナギについての知識をさらに深めていく。その後、調べたことをグループで発表する時間を設定することで、ウナギの生態についてさらに詳しく知りたいという子やウナギを育てるところを実際に見てみたいという子、他の産地のウナギについても調べてみたいと感じる子が多く現れるだろう。個人の調べ学習だけでは解決することのできない問題に直面する場面では、ウナギの養殖を営んでいる方(O氏)の仕事の様子を実際に見学し、質疑応答の場を設定することで、品質の維持向上のための努力や工夫を気付かせるとともに、生産者のウナギに対する熱意や愛情を感じ取らせたい。さらに見学で見つけた疑問点や分からなかったことをもとにして、課題の追及を進めていきたい。その後の報告会を行うために、それらの新たな問題を解決するために、ウナギの

養殖を営んでいる方に、もう一度ゲストティーチャー（O氏）として学校に招き、講話と質疑応答の授業を設定する。個人やグループでの課題の追究や報告会、見学、講話、質疑応答などの活動を通して、少しずつ子どもたちは、「ウナギを育てている人たちの努力や工夫はすごいな」、「ウナギを育てることは、たいへんだな」という気持ちをもつことができるようになるだろう。

学び合う③の終末では、一色産ウナギのおいしさのひみつにせまるために、生産・加工・販売に精通している方をゲストティーチャー（M社S氏）として招き、話を聞くことで、「一色産ウナギを応援したい」という気持ちを高める足がかりとする。つかむでの活動で行った値段の違うウナギの産地（一色産（A）と中国産（B））を公表し、中国産ウナギの品質が良くなってきていることを知った上で、それでも「一色産ウナギを買いたい」という児童の理由を取り上げ、その意見に共感させることで、「一色産ウナギを応援したい」という思いをもつことができるようになることを願っている。課題の追究を進め、様々な角度からウナギの養殖や加工・販売に従事している人の努力や工夫、思いや生き方にふれることができたことで、子どもたちは、一色産ウナギを応援するために、自分たちにできることは何であろうかと考え、行動を起こすだろう。単元の終末では、「一色ウナギ応援隊」を立ち上げ、一色産ウナギのよさを外部へ発信する広報活動を行うことにより、自分の住んでいる地域に愛着と誇りをもつことができるようになってほしいと願っている。

<単元前の子どもの実態>

子どもは、自分の町が好きかと問うと、ほとんどの子が「好き」と答えた。しかし、

- ・自分の身近な人や場所にしか目が向いていない。
- ・町で働くすごい人に目を向けていたり、一色町の地場産業がどこの町にも負けないという自信をもっている子は少ない。

第1次 ウナギについて知っていることと知らないことを整理しよう (2)

- ・ウナギについて知らないことが多いと気付かせるためのイメージマップをつくるために、意図的に指名、板書をする。

第2次 2つのウナギを食べ比べてみよう (2)

- ・中国産と一色産のウナギを用意し、産地は伝えないが、中国産もおいしくなっていることを体感させる。

第3次 自らの問題意識をもってウナギ調査隊になろう (4)

- ・子どもが追究対象を決定できるように、対話や朱書きをする。
- ・追究がスムーズに進むように、追究に必要なものの準備や訪問先との打ち合わせを行っておく。

第4次 調べたことを発表しよう (2)

- ・子どもの思いや考えを関連付けたり位置づけたりできるように、意図的に指名、板書をする。
- ・子どもの思いが、焦点化できるように提示する。

第5次 ウナギを育てるプロに会おう(ゲストティーチャー①) (8)

- ・子どもの思いや考えを焦点化できるように、事前に打ち合わせを行う。
- ・焦点化されるために、振り返りにおいて、意図的に指名する。

第6次 追究を深めるためにウナギ調査隊再出動 (8)

- ・追究が充実するように、子どもの追究状況を把握し、準備する。
- ・思いや考えが育つように、朱書きや対話を行う。

第7次 ウナギのすごさを報告しよう①(ウナギの生態や食べ方) (2)

- ・焦点化できるように、追究の状況を把握し、意図的に指名する。
- ・子ども同士が交流できるように、質問タイムを設定する。

第8次 水産試験場の方の話を聞こう(ゲストティーチャー②) (2)

- ・子どもの思いを焦点化できるように、事前に打ち合わせを行っておく。
- ・焦点化されるように、振り返りを意図的に指名する。

第9次 ウナギのすごさを報告しよう②(ウナギの育て方や、歴史) (2)

- ・焦点化できるように、追究の状況を把握し、意図的に指名する。
- ・子ども同士が交流できるように、質問タイムを設定する。

第10次 ウナギのおいしさのひみつに迫ろう(ゲストティーチャー③) (3)

- ・焦点化できるように、追究の状況を把握し、意図的に指名する。
- ・子どもの思いが焦点化できるように、事前に打ち合わせを行っておく。

第11次 一色ウナギ応援隊としてできることを考えよう (2)

- ・子どもが現実可能な目標を設定できるように、対話をする。
- ・子どもが実際に行動できるような計画と日程の調整をする。
- ・協力団体との打ち合わせを十分に行う。

第12次 一色ウナギ応援隊になろう (8)

- ・単元後の子どもの思いや考えの把握と価値づけをする。
- ・単元後も活動が継続できるような配慮や協力を行う。

<単元後に期待する子どもの姿>

- ・自らの力で問題を解決していくことができる子
- ・どこの町にも負けない地域のよさやすごさに気付き、地域を誇りに思う子

5 本時の指導

(1) 目 標

町の特産物であるウナギの養殖や加工・販売に従事している人の努力や工夫に気付き、「一色産ウナギを応援したい」という思いをもつことができる。

(2) 準 備

教師・・・本時のワークシート 児童・・・筆記用具、前時までのワークシート（ファイル）

(3) 学習過程

段階	学習活動・反応予想	指導上の留意点 <評価>
つかむ 2	1 本時の課題を確認する。 一色産ウナギのおいしさのひみつにせまろう	・前時までのワークシートを机上に準備しておく。
追 究 す る 35	2 調べたことを発表する。 なぜ一色産ウナギはおいしいのか発表しよう <育て方の工夫> ・矢作川の水を使っている(JT) ・水をきれいにしている(RB) ・エサにこだわっている(KS、RT、RK、MO、KM、KI、KT、HI、HW、HN) ・温度に気をつけている(SI、YY) ・新子を育てている(NN、MT、KT、YO、AI) <育てる人の努力> ・愛情を込めて育てている(KS、MS) ・大変な思いをして育てている(EY) ・心を込めて目をはなさずに育てている(AI、YS) ・朝早くから夜遅くまで働いている(KH) ・人間と同じように大切に育てている(YY) ・大事に育てている(AT) ・お客さんのために、一生懸命がんばっている(RA、YT、RO) 3 ゲストティーチャー（三河淡水 社長 柴崎忠義 氏）の話を聞く。 柴崎さんの話を聞こう ①子どもたちのこれまでの調べ学習について ②品質が良くなってきている中国産ウナギについて ③一色産と中国産ウナギの価格差について ④一色産ウナギの誇りと自信について ⑤一色産ウナギの未来について 4 ゲストティーチャーの話を聞いた感想を発表する。 柴崎さんの話を聞いた感想を発表しよう ・中国のウナギもおいしいけれど、やっぱり一色のウナギを買いたい。 ・お父さんが、がんばって育てている一色のウナギを応援したい。 ・中国のウナギに負けずに、一色のウナギを応援したい。 ・中国のウナギの品質が良くなってきていると聞いて、驚いた。 ・中国のウナギがなぜ安いのか、理由がよく分かった。 ・自分たちが調べてきたことをほめてくれてうれしかった。	・分類して板書をするので、一色産ウナギのおいしさのひみつを視覚的に分かりやすくする。 ・掲示物や前時までのワークシートを参考にすることで、活発な意見交流を促す。 ・朱書を入れた前時までのワークシートを準備することで、自信をもって発表できるようにする。 ・自信がないなどの理由で、よい意見をもっていない児童には、教師から意図的に発言を喚起し、指名する。 ・ゲストティーチャーと事前に、綿密な打ち合わせをしておくことで、効果的な話の内容となるようにする。 ・ゲストティーチャーの話を聞くことで、「一色産ウナギを応援したい」という気持ちを高める足がかりとする。 ・中国産ウナギの品質が良くなってきていることを知った上で、それでも「一色産ウナギを買いたい」という児童の理由を取り上げ、共感させる。
ま と め る 8	5 本時の感想をまとめる。 今日の授業の感想を書こう ・友達の話聞いて、値段だけで決めるのではなく、自分たちの住んでいる地域のことを考えて決めたいと思った。 ・値段が高くて一色の人たちが、心を込めて育てているウナギを買いたい。 ・地域の人が、がんばって育てている一色のウナギを応援したい。 ・一色のウナギをおいしいと言ってくれる人が増えるように応援したい。 ・一色のウナギを、もっとたくさんの人に知ってもらいたい。	・本時の感想をまとめることで、一色産ウナギのよさに気付かせ、次時の学習意欲を高める。 <一色産ウナギのよさに気付き、「一色産ウナギを応援したい」という思いをもつことができる。>

(4) 評 価

町の特産物であるウナギの養殖や加工・販売に従事している人の努力や工夫に気付き、「一色産ウナギを応援したい」という思いをもつことができたか、発言やワークシートから判断する。